

ささえあいの家スケジュール

2018 12月

-10:10～ □ =13:00～ 予約 はお電話ください。 27日は小中学生の日です。

※ 12/5 どこで最期を迎えるかを語り合いましょう

月	火	水	木	金
3	4 囲碁・将棋	5 公園で絵を描こう	6 パソコン相談	7
		※「どこで最期を迎えるか」		フットケアマッサージ 500円
10	11 囲碁・将棋	12 ゴムバンド体操	13	14 小谷さんの 囲碁教室
河合さんの 脳トレ		社協何でも相談 予約		
17 ガーゼハン カチ作り	18 围碁・将棋	19 公園で絵を お昼を ご一緒に	20 パソコン 相談	21 包丁・鎌 研ぎ
認知症茶話会 (オレンジカフェ)	地域包括支援セン ター相談会 予約			岩嶋さんの軽 体操
24	25	26	27 小中学生 囲碁・将棋 勉強デイ	28
	休館	休館		休館

感謝 アルミ缶 9・10月で 55,750円でした
12/11 アルミ缶回収日です アルミ缶の他、鍋・やかん・フェンス・フライパン等アルミでできている物ならなんでも集めます。ささえあいの家・ささえあい活動の運営資金にします。

1月6日まで閉館します。1年間のご協力ありがとうございました。良いお年をお迎えください。

✉・ファックス

377-3400

開館 平日 午前10時～午後3時まで

ささえあい活動の依頼もどうぞ

10/24 くらしを語る会「少数派を理解しよう」を実施
結論「人それぞれの特性があることを理解して仲間になろう」
人々の特性 例
回覧文書

- ・漢字とふり仮名を一体の文字として認識。
- ・文字列の左端がまっすぐそろっていないと読めない。
- ・ほとんどの漢字にはふり仮名が必要。

ひも

- ・からまっているのを、戻すことが得意
人の集まり
- ・3人以上だと、圧迫感を感じる
- ・意見を主張し合っている場にはいたたまれなくなる音
- ・多くの人が平気な音でも、苦になって、その場を離れたくなる



人と人をつなぐ

フードバンク委員会・近隣ケア 大柴

古田さんが、松が丘の奥村さんととても親しいと知って、古田さんが入院中に奥村さんを誘って、お見舞いに行きました。

10/27 の豚丼を食べる会に、2人が会えたらしいなと思い、古田さんに話したらとても喜ばれました。ところが奥村さんは、松コミでの作品展とお茶会があり、夫の昼食も作らないといけないと言います。そこで、松コミに奥村さんを迎えに行って、豚丼を奥村さん宅のお連れ合いに渡して、奥村さんをささえあいの家にお連れし、2人は会えたのです。移送はささえあい活動に依頼しました。



ふるさとを手話で歌う

10/21 地域コミュニティー会議

「3年前と今と変わったこと変わらないこと」から議論が始まりました。市社協のまとめ

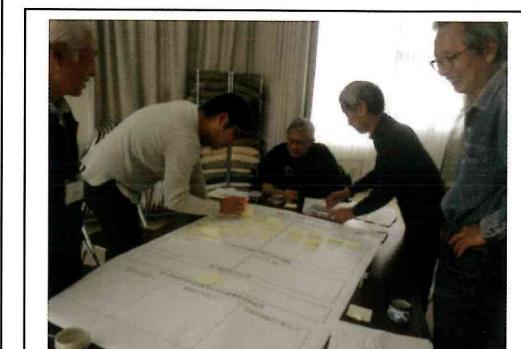
昭和40年代に造成された、松が丘・つつじが丘の2つの自治会から構成される八木山地区は高齢化率40%を超えていた。

この3年間の変化としては、社協活動の活発化に関する意見が多く、様々な委員会が立ち上がったことや、「ささえあいの家」「ささえあい活動」について意見が出ていた。また地区社協として便利帳や時刻表を配布したことなど、取り組んできた活動を良い変化として話されていた。背景には、この3年間で地区社協活動が目覚ましい発展を遂げ、多くの住民が関わっていることが、参加者自身も認識していることがあげられる。

また他地区ではネガティブに話されることの多い「空き家」について、新しい住民が住み始めるなど「若い人が増えて希望が出た」と話されていた。

変わらない部分として①コミュニケーション②高齢化といった言葉が出ていた。特に高齢化について「支援を必要とする家庭が固定化している。必ずしも多くはなっていない」といったコメントがあり、漠然とした「要援護者」ではなく特定できている点が、この地域の困りごとに対する関心の高さがわかる言葉が話されていた。

自分ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事で話しかける ・ささえあい活動に参加 ・自分自身が進んで参加できるよう健康に気を付ける。 ・仲間作り ・自然体（素直）で活動に参加し協力する。
地域ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・SOSが出せる人間関係作り ・子育て家庭への支援 ・ささえあいの家の継続 ・行事の内容を見直す・各団体の連携 ・行事に関わる方の負担を軽減する ・新しく入った方へのケア
行政の役割だ	<ul style="list-style-type: none"> ・八木山地区の良さをアピール ・空き家利用を積極的に推進・スタッフ（学生含若者の参加） ・資金



「ささえあいの家」は、ずっと続けます。これからもボランティア活動を続けます！
グループの発表より

フードバンクをはじめました 委員長 小野木真一

地球規模で考えても貴重な食料。捨てることなく利用したい。もし、ご家庭で、余分なまた捨てるだろう食材がでたら、ささえあいの家に、およせください。調理して、またはそのまま必要とする人に届けます。10月には、淡路島から届いたと言うりっぱな玉ねぎをたくさんいただき、豚丼や氷玉ねぎにして食べていただきました。



玉ねぎがつなぐ人と人

10/27 いただいた玉ねぎを使った豚丼を、37名の人に食べいただきました。病気のために4年間地域の人と離れていた人が、みんなと会えました。「私のこと覚えている？」と互いの無事を確認し、感激の時間となりました。

